

「情報システムの役割」と パッケージ導入

- 経営・業務課題の解決に向けて -

1. 情報システムの持っている特徴
2. 経営管理の道具として
3. 情報システムの持つべき処理要件
4. 経営課題の解決に向けて
5. パッケージ導入(情報システム構築)の位置付け
6. パッケージ導入のシナリオ
7. パッケージ商品の選定ポイント

参考資料: (1) 飛行とパッケージ導入
(2) 情報システムと工業製品の違い
(3) 情報と知識

- ・ パッケージ導入は企業活動に貢献できる情報システムのあり方を考えることが大切です。
- ・ 情報システムの持っている特性・強みを経営/マネジメント/業務に活かす工夫をすることです。成功事例に共通して見られることです。

1. 情報システムの持っている特徴

企業活動に対して、情報システムは次のような側面を持っています。このようなマクロ的な見方も必要です。

1. 取引構造を変える

業種の壁が低くなり、異業種の参入が可能
コスト削減を主にした流通形態の変化

2. 企業規模を無視する

アイデア、付加価値のある商品・取引の登場
取引機会の一般化、低廉化、平等化

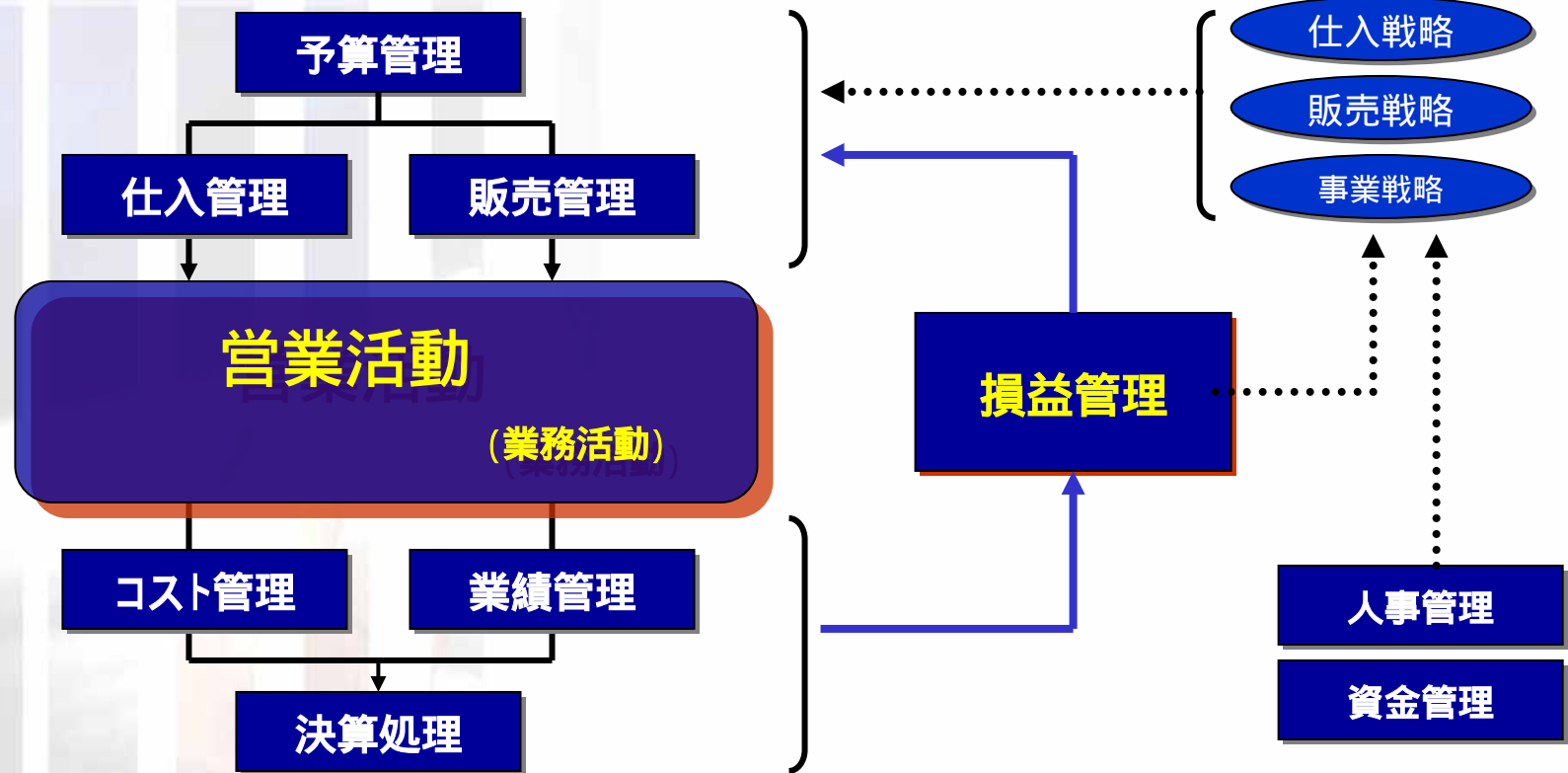
3. 時間の壁を超える

取引の情報伝達が、即時即決にて可能
「社内の延長」としての取引環境の整備

4. マクロ対応になる

競争優位・差別化・事業基盤強化の戦略の道具
規制緩和による商取引の基盤が拡大

2. 経営管理の道具として



- ・ 営業活動の指針としての「予算・仕入・販売管理」があり、営業活動の結果としての「コスト・業績管理、決算処理」があります。その中枢として、「損益管理」が位置しています。
- ・ これら経営管理の枠組みを、「PLAN - DO - CHECK - ACTIONのサイクル」で根付かせて、営業活動なり業務活動の充実が経営管理の基本といえます。

3. 情報システムの持つべき処理要件

これからの情報システムは次のような要件をもつことが、今後の事業基盤を支えるために必要であります。自社の足元を見て、点検して下さい。

取引条件への対応

- ・取引先へのサービス向上(納期・品質・)
- ・請求、売掛、回収管理(要求条件・・・)
- ・オンライン取引(見積り・受注・納期・・・)

業務処理の効率化

- ・二重入力の排除と入力データの活用
- ・業務変更、管理変更への対応容易化
- ・パソコン連携による情報活用

利益管理の中枢化

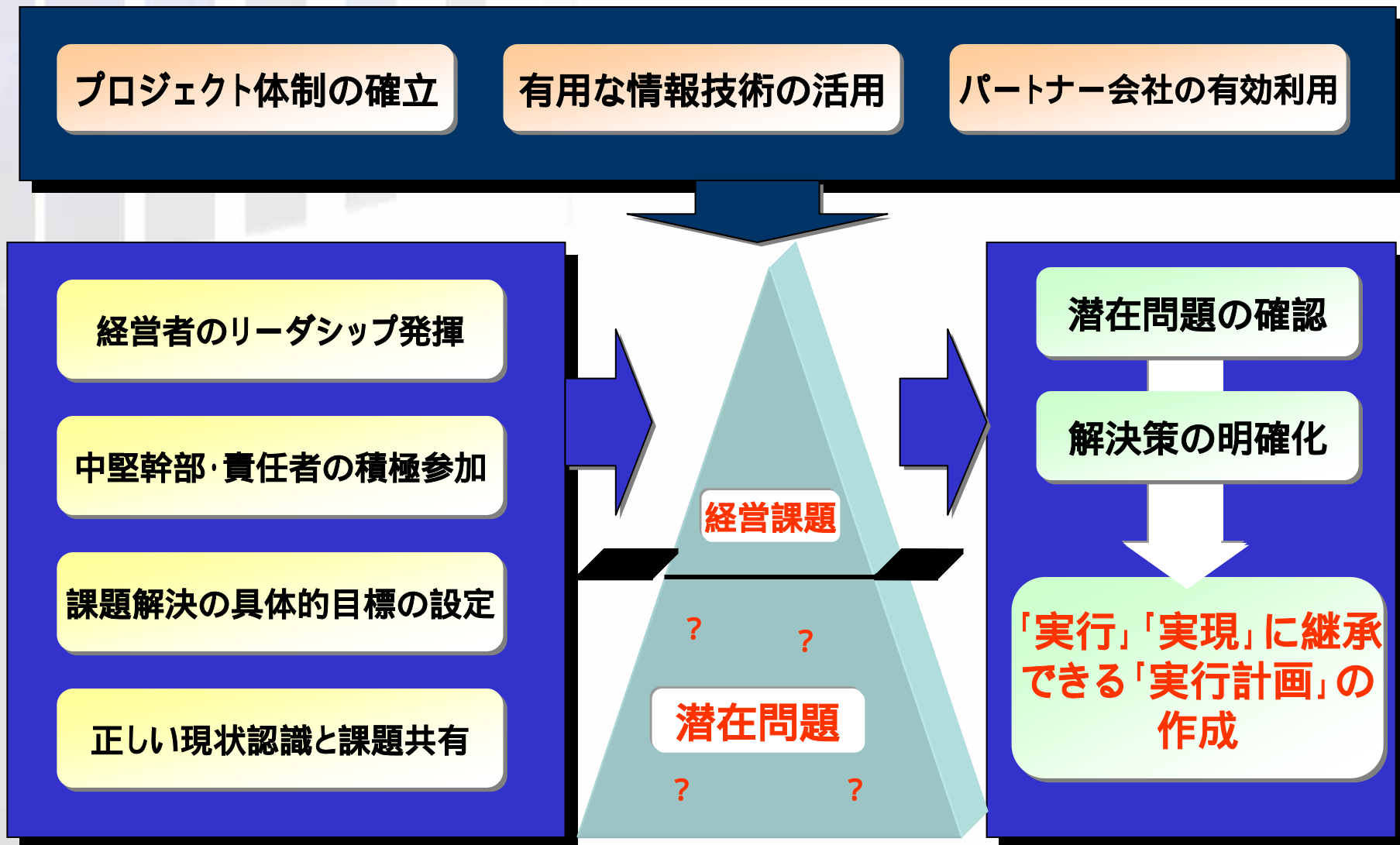
- ・組織、取引先、商品、物件別の利益管理
- ・管理会計と業務処理との一体化

取扱い商品の多様化

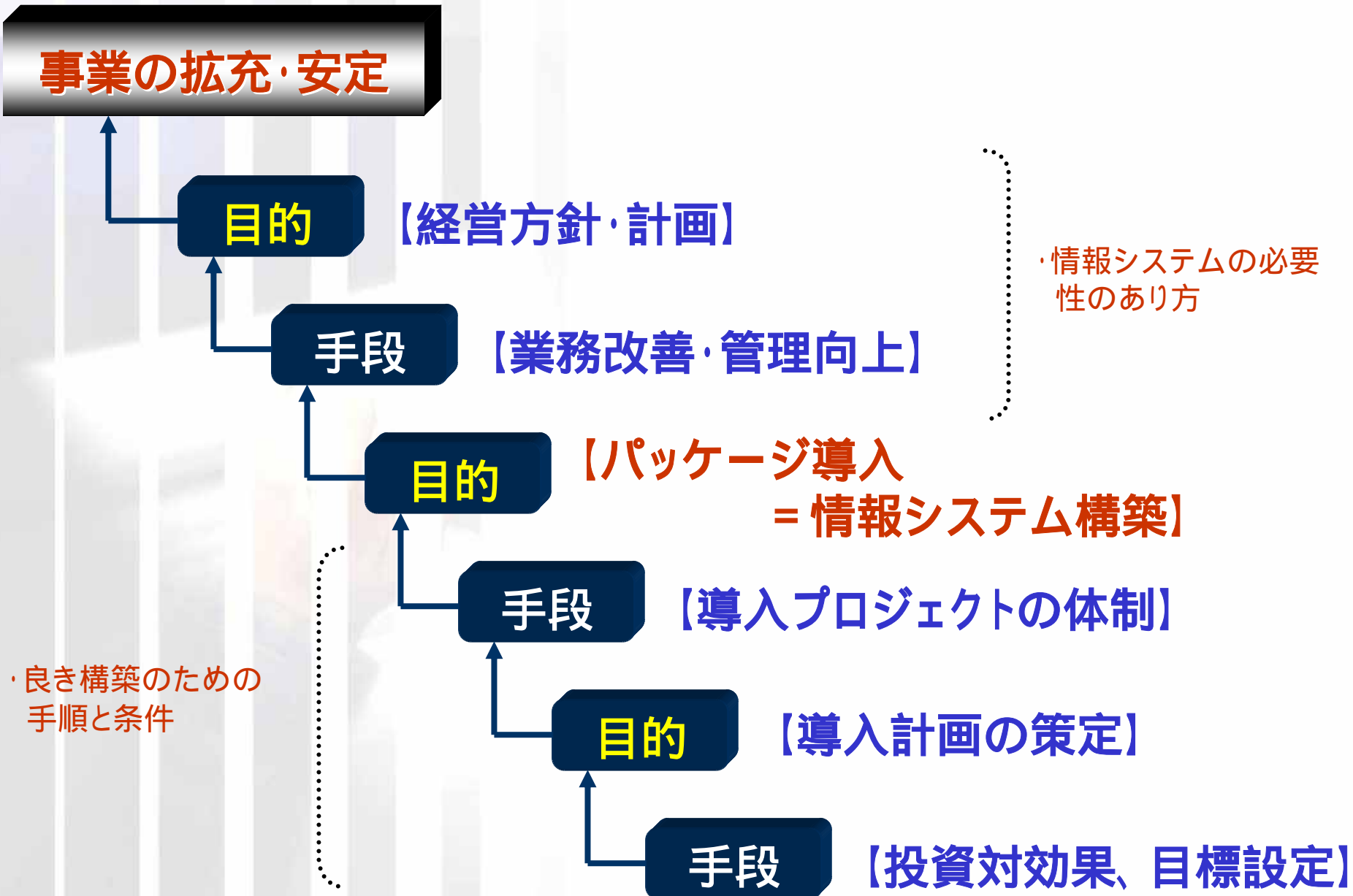
- ・生産、物流、販売、管理までの一貫対応
- ・多様な商品スペックと規格の処理

4. 経営課題の解決に向けて

- 経営課題を解決する際に考慮すべき点は、有言不実行にならないための方策を経営者の責任で明確にすべきです。



5. パッケージ導入(情報システム構築)の位置付け



6. パッケージ導入のシナリオ

前提

情報システムの目的、期待効果
情報システムの持つべき処理要件
情報システム活用の企業風土

これらの前提条件を満たした上で……

シナリオ



パッケージ
仕様

一方的に
合わせる！

業務・管理



パッケージ
仕様

相互確認！

業務・管理

パッケージ
カスタマイズ

相互に合わせる

業務・管理
改善

7. パッケージ商品の選定ポイント

選定の前提

パッケージ適用の業務領域の決定
経営管理・業務における改善目標の設定
導入計画の作成とプロジェクト体制の確立

選定ポイント

対象業務の範囲と改善目標の実現度

パッケージ機能の拡張性と柔軟性

- － 事業変化(商品・取引)への対応
- － 経営管理の進化への対応

投資費用

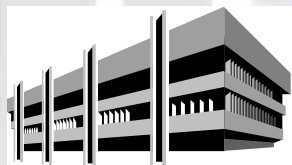
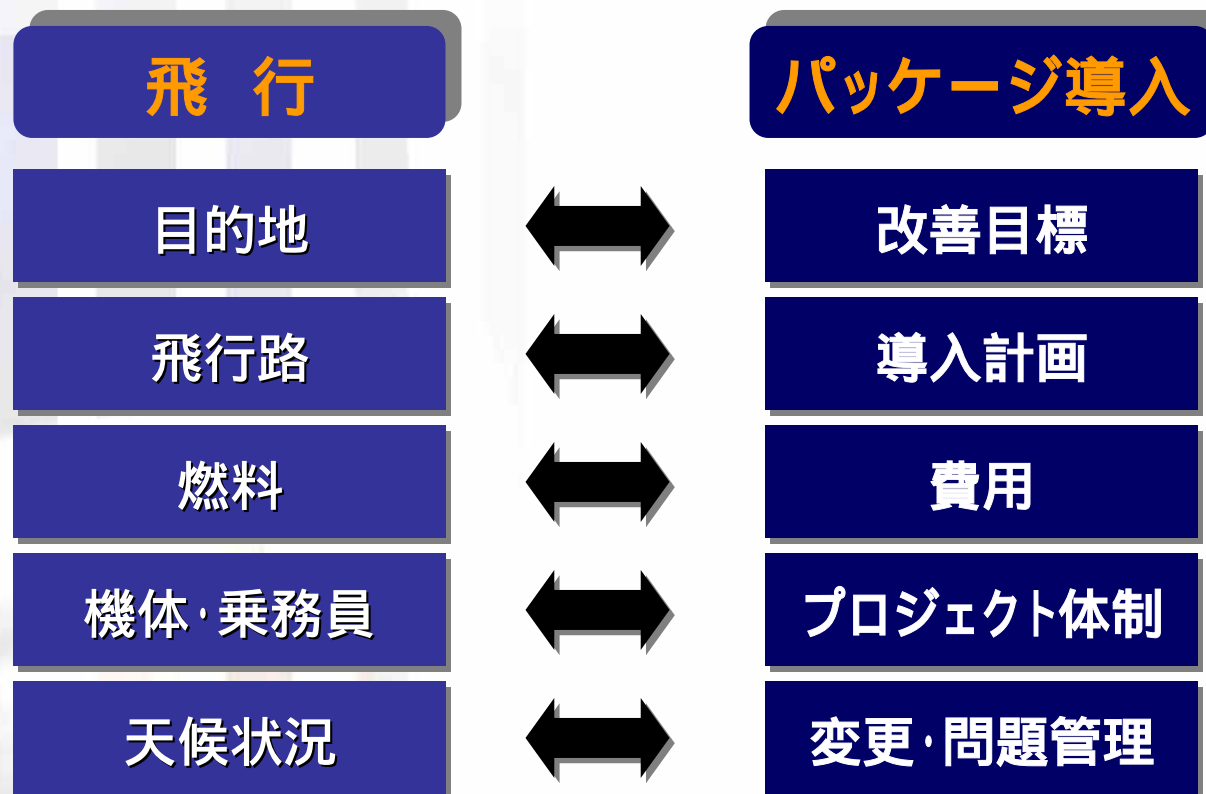
- － 初期費用、維持費用、改善費用

カスタマイズの少なさ、導入手法の整備度

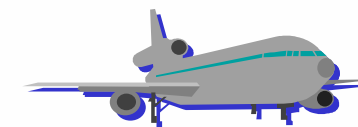
パートナー会社の信頼性と実力

參考資料

(1) 飛行とパッケージ導入



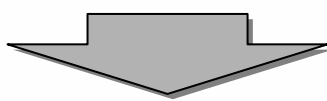
滑走路 = プロジェクト基本計画



これらを怠って離陸すると「引き返し」か「無理な着陸」
が待っているのが常である。

(2) 情報システムと工業製品の違い

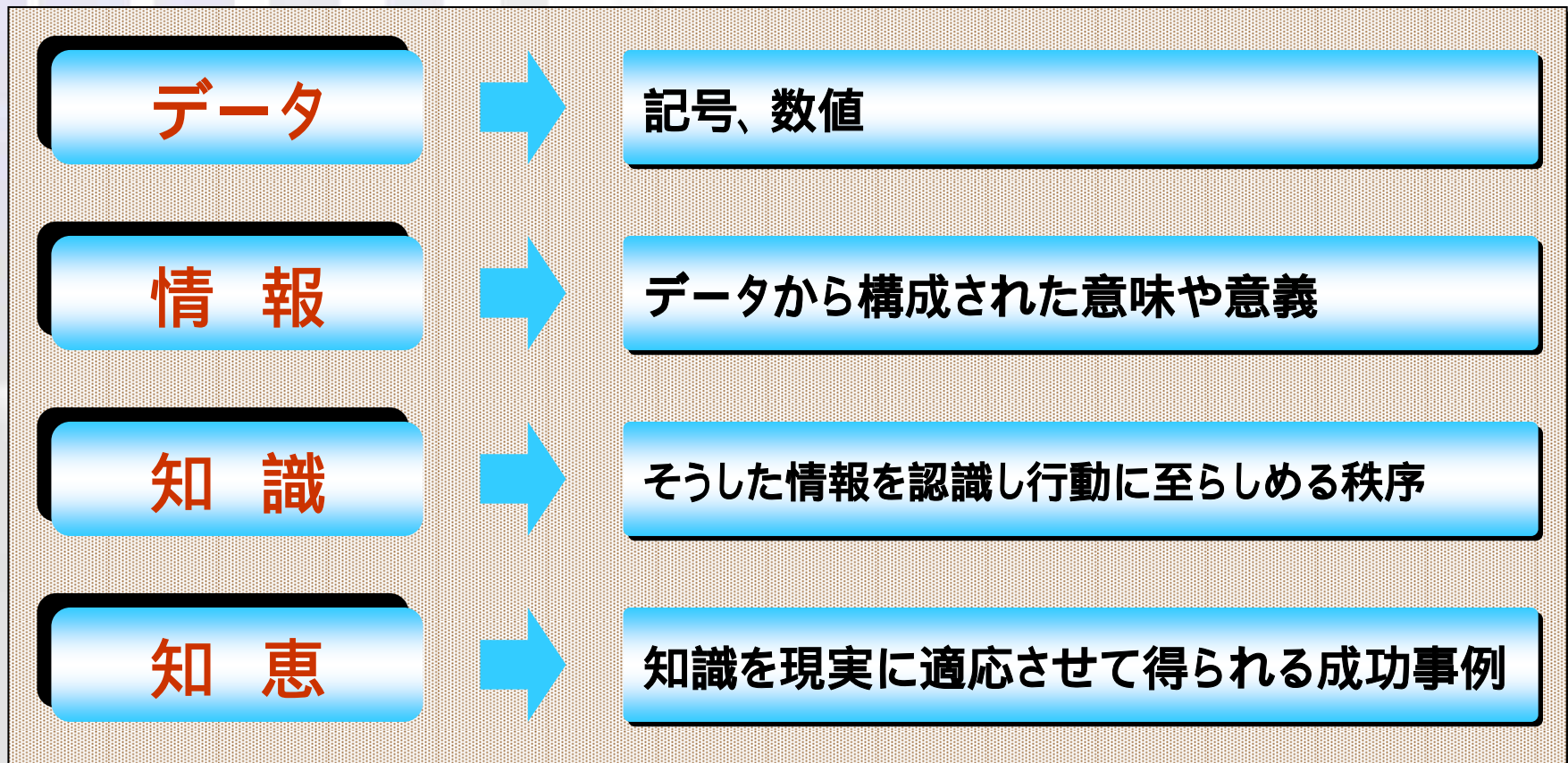
	情報システム	工業製品
素材	方針・先見性・考え アイデア・知識・経験	原材料・加工品・他
製造	改善目標に対する 人との対話、人が主体	機械・道具が主体 人が主に指示
形状	全体の仕組み・仕掛けが 確認しづらい(精度・品質)	形・姿が見える 動き・機能が分かり易い
特徴	「確認」という人と人の 作業形態が中心となり、 人が商品を創りあげる (注)	機械に依存しての生産・ 加工が主のため、製品 の品質・特性の幅が限 定される



(注)パッケージ導入に関しても同様と考えられる。

(3) 情報と知識

「知識経営のすすめ」野中・紺野著:参考



「経験+勘」から「数値感覚+経験+勘」の人材へ